



2021
OCT

ナチュラルひょうご

発行：コープ自然派兵庫 広報委員会
TEL (078) 998-1671 (本部・神戸センター)
FAX (078) 998-1672 (事務局)
e-mail : event18@shizenha.co.jp

「ナチュラルひょうご」は組合員から組合員への発信紙です

ナチュラルひょうごはコープ自然派兵庫の組合員から組合員への不定期発行の機関紙です。組合員さんからののお便りやメールなどのメッセージを元に校正編集しています。

I voted!!



『選挙へ行こう!』

10/31(日)は衆議院選挙、兵庫県内では神戸市や南あわじ市、たつの市などでも様々な選挙が行われます。選挙へ行き、「I voted!!」と、主権者として権利を行使し、大人の責任！を果たしに行きませんか？

日本国籍を有し、18歳を迎えた人は、みんなの代表を選挙で選ぶことのできる「権利」を得ます。しかし、7月に行われた兵庫県知事選の投票率は41.1%。前回の48回衆議院議員総選挙（2017/平成29年）では60代：72%、40代：53%、20代：33.8%、全体：53.68%と、投票率は決して高くありません。政治はあまりにも遠い存在、誰かが勝手に決めてくれると、しばし他人事になっていないでしょうか。

子どものころ、学級委員長や生徒会長はどうやって決めましたか？

私は岡山県下2校しかない丸坊主&おかっぱ、そしてブルマ！という非常に珍しい中学校でした。それが嫌で転校する友人もちらほら。自分たちの学校のリーダーを決めるとき、そのわけのわからない校則撤廃!!!が、非常に重要視されました。先生も生徒もまるでお祭り騒ぎのように、誰もが夢や希望をもって投票をしました。

結果、女子生徒会長の誕生、見事に自由な（ある程度）髪型ができるようになり、短パンに変わりました。校区の小学生たちに大きな安心をも与えました。それが選挙だと大人になって、改めて認識。公約で難しいことを言われても分からないけれど、次の4年どんな日本であってほしいのか、自分たちの住む町がどんな町であってほしいのか、子どもたちが夢や希望を持てる未来にするために、投票日まで立候補者の演説に耳を傾け、選挙のことを考えてみるのはいかがでしょうか。1人の1票は小さく感じますが、大切な1票です。

意思表示をしに、投票所へお出かけしよう^^

コープ自然派兵庫はパタゴニア・NYNJと共に、選挙に行こう!に、取り組んでいます



パタゴニア HP



コープ自然派
事業連合 HP



patagonia®

『VOTE OUR PLANET』

私たちの地球のために投票しよう

詳細はHPに記載予定

NO YOUTH NO JAPAN

衆議院選 2021

#だから選挙行かなきゃ

NYNJ HP



衆議院議員総選挙



神戸市長選挙



NO YOUTH NO JAPAN

『#だから選挙に行かなきゃ』

『I voted!』ステッカー

VOTE FOR KOBE



U30世代のための選挙の教科書メディア **NO YOUTH NO JAPAN** と **神戸市明るい選挙推進協議会** がコラボし、「ivoted ステッカー」を作成されています。「神戸発のカルチャー」と「北野異人館の風景」です。投票に行って、ステッカーをもらおう！詳細はQRコードをご覧ください。

コープ自然派兵庫では、子どもの一食がとても大切だと感じ、給食を良くしていくことを考え、取り組んでいます。今年度は給食チームが3か所所立ち上がり、みなさんの関心の高さも実感しています。

議会へはたらきかけることや、学校の先生との懇談なども大事ですが、何より首長がビジョンをもってくれることが一番重要です。そこで今回の神戸市長選挙にあたり、候補者のみなさんにアンケートを取りました。5名全員に送付し、4名の回答を頂きました。紙面の都合上一部編集し、裏面に記載しています。全文はコープ自然派兵庫のHPに掲載しています。

ぜひ、投票前にご一読頂ければと思います。

※今回の記事に関して、特定の政党や候補者を支持するものではありません。

コープ自然派兵庫 HP



ナチュラルひょうごにオンライン投稿ができるようになりました!

右のQRコードから投稿をおまちしています。



神戸市長選候補者5名に、

「学校給食」をテーマにアンケートを依頼!

神戸市学校給食に関するアンケートへの回答のお願い

神戸市長選挙に立候補されるみなさまに、学校給食に関するアンケートをお送りしています。お忙しいところ恐縮ですが、ご一読の上、ご返送をお願いいたします。コープ自然派は日本の環境保全型農業・水産業を応援し、食料自給率の向上を目指している生協であり、誰もが有機農産物を食べることができる社会を目指し、日本の農業の10%を有機農業に変える取り組みを進めています。9月末から宝塚市の1校へ有機たまねぎと有機じゃがいもの供給を開始しました。また、明石市でも有機食材を使った学校給食を目指す「幼小中学校の無添加を目指す請願書」が採択され、実現に向け意見交換会を行っています。神戸市の給食は、1日に83000食、年間1500万食にも上り、近隣の比較は難しいかと思いますが、学校給食を有機に変えていくことは地域の農と食を見直し、子どもたちへの食育で生きる力を養うことができる取り組みになると思います。また、食べることは生きることであり、給食は子どもたちの3食のうちの一食で、安全な食事をとることが子どもたちの心身ともに健やかな成長につながります。そして、貧困問題が大きく取り上げられる昨今では、学校給食の果たす役割は大きく、学校給食に取り組むことは様々な社会問題解決の第一につながるのではないかと考えます。神戸市長としてご活躍される際には、地産地消や安全で優れた有機食材の給食を子どもたちに提供できるように取り組んでいただくと、市民として大変嬉しいです。つきましては、別紙のアンケートにお答えいただき、10月17日(日)までにご返送をお願いします。アンケートの結果は公表する予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

生活協同組合コープ自然派兵庫組合員理事一同・給食チーム一同

☆アンケート調査票の返送について

・ご記入頂いたアンケートは、お手数ですがFAXかメールにて、2021年10月17日(日)までにご返送していただけますようお願いいたします。

☆アンケートの公表について

・コープ自然派兵庫HP、広報紙、SNSで公表いたします。

返送がない場合、回答なしと記載いたします。

あらかじめ、ご了承ください。

	1. 地産地消について	地産地消率は何%目指す?	2. 安全性 (農薬基準) について	3. 米飯給食の望ましい回数	4. 中学校給食望ましい方式は
中川ちようぞうさん	不満	神戸市産 40%、 隣接市町を含め 50%以上	不満	4～5回	それぞれ 一長一短あり
岡崎ふみのりさん	不満	100%	不満	5回	自校方式
さかたに敏生さん	やや不満	100%	やや不満	日替わり	自校方式
ときたかおりさん	不満	50%、 兵庫県産を含め 100%	不満	5回	自校方式か親子調理方式
久元きぞうさん	回答なし	回答なし	回答なし	回答なし	回答なし

<理由>

1. 神戸市学校給食の地産地消

* 中川ちようぞうさん

地産地消を進めることが地域の農林水産業を育て、子供たちの健やかな成長を支えるとともに、人々が太陽・大地・海の恵みを楽しみ、環境や自然の大切さを自覚し、そして食糧を生産・流通・販売してくれている全ての人達に感謝しながら、心豊かに幸せに生きる基盤になります。フードマイレージやフードロスなどを考えると、地産地消が望ましいのは明らかです。

* 岡崎ふみのりさん

神戸市は、学校給食の地産地消率や、国内産自給率の向上について、計画も目標も持っていないのが問題です。これでは生産者や栄養教諭や調理師など現場で食育の努力をされている方が報われません。明確な目標と年次計画を立てて、具体的な神戸市の施策に結び付けていくことが大切です。

* さかたに敏生さん

西区等、農業地域を拡充し、完全なるオーガニックを安価で希望します。

* ときたかおりさん 冷凍野菜の使用が多く、地元産の使用が少ない。

2. 神戸市学校給食の安全性（農薬基準）

* 中川ちようぞうさん

学校給食に限らず、食材全般の残留農薬や化学物質の規制基準を強化する。

* 岡崎ふみのりさん

神戸市では主食は年3回、副食はモニタリングで検査をしていますが少ない。他都市では無農薬100%米を使用している給食もあります。農薬を使わない農地を広げる支援と一体に、検査基準を高く設定し、更なる安全性を強めることが求められています。

* さかたに敏生さん 種子法など廃止後、低価格不良商品も多く見ます。

神戸産、神戸完全消費を目指す！

* ときたかおりさん 検査の頻度が少ない

3. 現在米飯給食は週3回、望ましい回数は？

* 中川ちようぞうさん

週4回さらには週5回が理想です。ただし、パン食を希望する児童生徒や保護者もいるので、神戸市内産または兵庫県内産の、有機無農薬の米粉や小麦粉で焼いたパン食も選択できる仕組みにします。保護者や児童生徒が自己のアレルギーなども勘案し、ネットから喫食の注文ができる仕組み（アプリ）を導入、全国初の「パーソナル給食」「カフェテリアメニュー」を実現します。

* 岡崎ふみのりさん

週5回原則を目指すのが望ましい。朝や外食でパンやパスタなど小麦ベースが増えていますが、こどもにとって食育の根幹の一つである学校給食で、地産地消や食糧自給率向上の観点からしっかり米飯の役割を学ぶ。もちろん、国産オーガニックのパンや麺類なども、特色ある献立として定期的に入れることで、多様性と共に、本当においしいパンや麺類にも触れることができる学校給食を目指してほしいです。

4. 中学校給食について、4つの実施方法から望ましいと思われる方式は？（表を参照ください）

5. 子どもたちの一食である学校給食への想いを聞かせてください

* 中川ちようぞうさん

小さい頃から健全な食習慣を身に付け、栄養バランスの取れた安全で美味しい給食を摂ることが食育や人間形成にも役立ちます。地域で採れた旬の食材を、自然や農業者などに感謝しながら毎食いただくことが子供たちに社会や人との繋がりを認識させ、食糧の生産・流通・飲食産業などに関わる人達への敬意や感謝の気持ちを育みます。つまり、食を大切にすることが、地域社会や環境や自然を守ることになり、自らの健康づくりにも役立ちます。給食の予算を多少増やして行政支出が増えなくても、子供たちのアレルギーや偏食が減り、健康体に育つことのメリットの方が遥かに大きく、医療費などを含めたトータルな社会的コストでは、むしろオーガニックや無添加を目指す方が安くなると思われます。オーガニックそれ自体が目的ではなく、国産食材とくに地元産の野菜や肉魚を増やし、米飯にするかパン牛乳かは選択制とし、パンの場合は地元産小麦を使う。化学調味料ではなく天然の調味料を使うなど、長年続いた給食システムを変えるには、見識ある市長や教育長のリーダーシップが不可欠です。

* 岡崎ふみのりさん

学校給食を通して行う食育は、地産地消や食糧自給の問題、農業と気候危機の問題、プラスチックなど環境問題を考えることにつながる大切な学校教育の柱になります。自校調理方式は給食を適温で提供でき衛生管理がしやすく、アレルギーや地産地消にあわせた独自のメニューにも対応できます。センター方式とくらべても栄養教諭をたくさん配置ができ学校ごとの食育の推進ができるなど、ほかの方式では変えられない多くの長所を持っています。なにより子ども達、保護者のみなさんの願いがあたかき学校調理で実施してほしいというものです。お金と命を天秤にかけるような冷たい市政はもうおわりにしましょう。願いに応え、予算を確保して、必ず実施する。これが市長の仕事です。こどもたちや保護者、生産者の思いにこたえ、中学校給食は自校調理による温かい給食に転換します。小学校給食も安全性を重視し、直営で正規の調理員を増やし、栄養教諭と一体になった食育を推進すべきです。

* さかたに敏生さん

味はともかく、安全で完全に市内ですべてが回るやり方。家庭では100%無農薬も無理ですから、学校は確実にそして無料を目指します。

* ときたかおりさん

学校給食は小学校時代の楽しい思い出の一つです。長男が小学校卒業時に人気の給食レシピ集をもらい、頂いたレシピ集を参考に家で給食メニューを作りました。子どもが学校でどんな給食を食べているのか、知るよい機会となりました。また、いろいろな国のお料理が給食で提供されていることも知り、国際都市神戸らしい給食が実施されていることも分かりました。今はコロナ禍で通常の形での実施が難しい面はありますが、食べることの大切さや人と会食する楽しさ、健康を維持する上で栄養バランスの大切さを知るよい機会になっていると考えます。一方で子どもたちの貧困は以前より見えにくくなっていると思います。家庭の事情で給食が命を支える食事となる子どもが多いくると聞いています。学校給食をきっかけに、子どもたちの貧困救済の道につなげられたらと思っています。

6. 神戸市学校給食の展望を聞かせてください

* 中川ちようぞうさん

人口規模も財政規模も大きい政令市の神戸市長には広範な権限が付与されています。給食の分野でも先駆的な取り組みを実現し、全国の自治体に模範を示すべきです。私が神戸市長になれば、給食事業を時代に合わせもっと合理的に運営する仕組みに変え、より安全で美味しい給食の実現を目指します。食育や「給食改革」の価値が分からない市長や教育長さらには議会に対し、いくら要望や請願をしても遅々として進みません。それより明確な公約を掲げて戦いつづけている候補者を市長に当選させ、それを実行させる方が早いです。是非とも市民の皆さんのお力をお貸し下さい。

* 岡崎ふみのりさん

神戸市は全国に先駆けて1950年に完全給食制度をスタートさせましたが、中学校給食の実施はなかなか踏み出さずしてました。そうした中、たくさんの保護者や団体が声を挙げ、ついに中学校給食を実施。しかし、今の市政は「費用対効果」を理由に、安上がりの民間整備を優先させたため、安全基準違反での業者撤退による中断、さらには冷たい副食による利用率の低下と問題が続いています。またもや「費用対効果」を理由に、民間工場とセンター方式の併用を採用し、自校調理の実施を見送ろうとしています。ですが、子どもたちの思い、保護者の願いに応えた市民の運動は、とどめることはできません。食育の充実を求める声は拡がります。こうした願いや運動によって、かならず神戸市の学校給食も変わり、変えていけると確信しています。その先頭に立って頑張る決意です。

* さかたに敏生さん

メニューは飽きず、全てにおいて安全または安心、更に代金がかからぬ学校様式は必ず神戸への移住効果につながると思う。もっと派手な打ち出しを。

* ときたかおりさん

中学校の完全給食を実現します。コロナ禍は選択当校制の実施を前提に給食を中弁当に詰めた「給食弁当」を配食したいと考えています。親子リレー方式を参考に、校区内の小学校で調理、数カ所小・中合わせてお弁当の配食を行いたい。小学校の調理師だけでは不足のため、飲食・観光業者への業務委託等を通じ、業界への支援策の一つとしたい。将来的には朝食もパンと牛乳程度の簡易な給食の形を作りたいです。給食は子どもたちの学習へのモチベーションを高めるうえで、大切な事項と考えています。重点施策の一つである、子どもたちの教育の質の向上の一環として、給食実施に手厚く予算を充て、整備していきたいです。